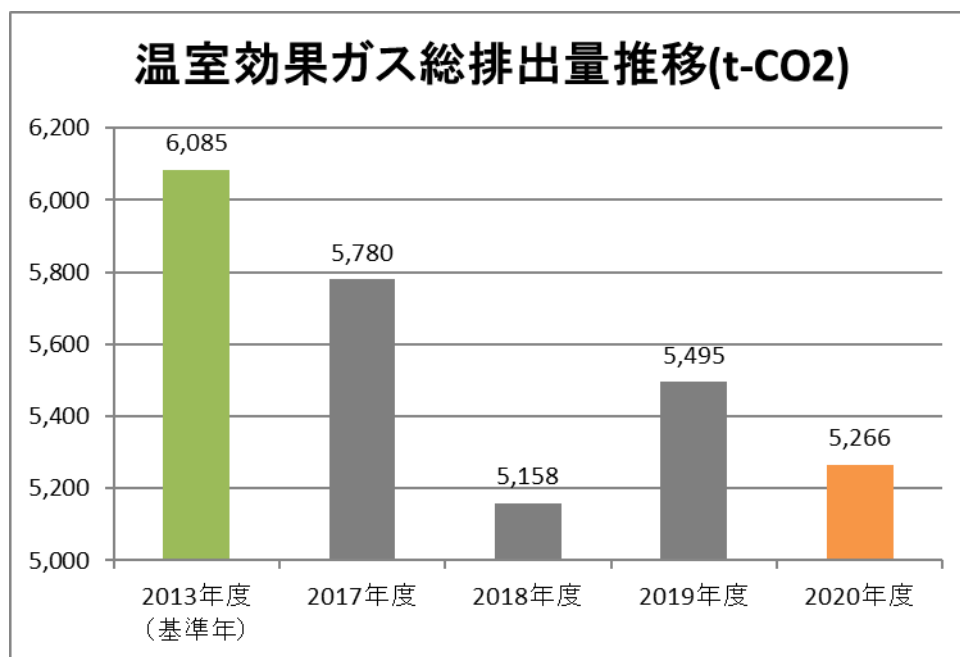


2020年度温室効果ガス排出状況

2020年度の温室効果ガス総排出量は5,266t-CO₂となり、2013年度（基準年）比で819t-CO₂（13.5%）減少しました。前年度比では229t-CO₂（4.2%）減少しました。

年度	排出量 (t-CO ₂)	基準年対比	前年度対比
2013年度 (基準年)	6,085	0.0%	-
2017年度	5,780	-5.0%	-
2018年度	5,158	-15.2%	-10.8%
2019年度	5,495	-9.7%	6.5%
2020年度	5,266	-13.5%	-4.2%

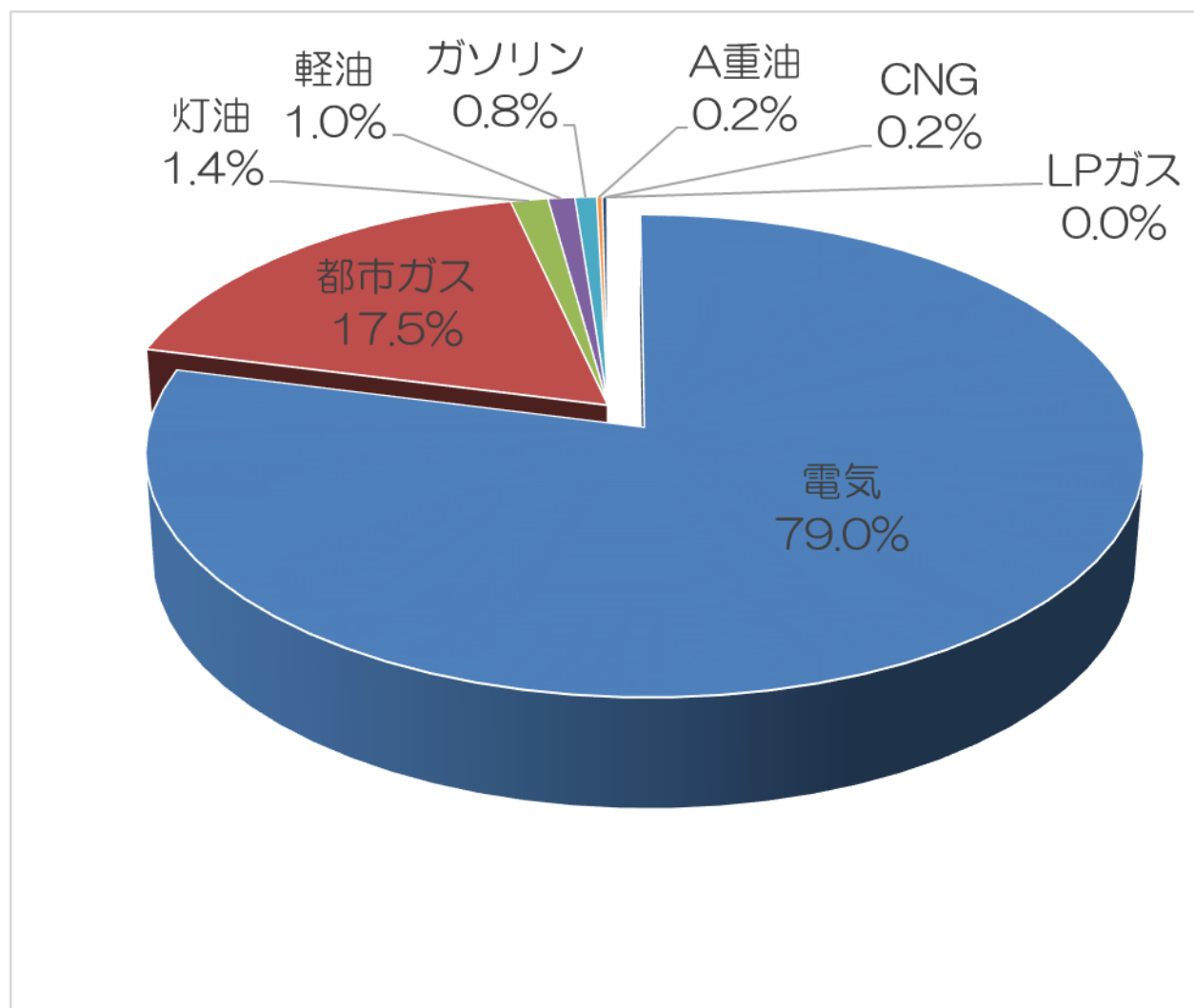


エネルギーの種類別でみると、ガソリン、軽油、灯油、A重油、電気、CO₂以外の温室効果ガスの6項目において、2013年度（基準年）比で減少しました。前年度比では、ガソリン、A重油、電気、CO₂以外の温室効果ガスの4項目で減少しました。

項目	温室効果ガス総排出量(t-CO ₂)							
	2013年度 (基準年)	2019年度	2020年度	基準年比(2013/2020)		前年度比(2019/2020)		
				増減量	増減率	増減量	増減率	
燃料	ガソリン	50	47	42	-8	-16.5%	-5	-12.5%
	軽油	77	49	52	-25	-32.8%	3	5.3%
	灯油	94	68	72	-22	-23.3%	4	5.7%
	A重油	16	13	11	-5	-32.8%	-2	-21.0%
	LPガス	0.9	1.1	1.3	0	44.1%	0	15.2%
	都市ガス	726	818	919	193	26.6%	101	11.0%
	CNG	4	8	9	5	131.8%	1	13.7%
電気	5,114	4,488	4,157	-957	-18.7%	-331	-8.0%	
CO ₂ 以外の温室効果ガス	4.1	3.8	3.6	-1	-13.4%	-0	-7.0%	
合計	6,085	5,495	5,266	-819	-13.5%	-229	-4.3%	

温室効果ガス排出量の構成比は、下図の通りです。

電気が全体の79.0%と最も高く、以下、都市ガス(17.5%)、灯油(1.4%)と続きます。



温室効果ガス総排出量が 2013 年度（基準年）比で減少した要因は、全体の約 79%を占める電気使用に伴う排出量が、957t-CO₂（18.7%）減少したこと、また、排出係数のより小さい電気事業者を選択したことが挙げられます。

電気使用量の 2013 年度（基準年）比での主な減少要因は、市内公共施設が新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一定期間の休館していたことや、市立幼稚園 4 園が閉園したことに伴って、当該施設の電気の使用頻度が減少したことが挙げられます。

引き続き、目標達成に向けて、職員・施設管理者による継続的な省エネ活動を推進してまいりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

●事務系施設の取り組み

- ・庁舎等の事務系施設では、エネルギー使用量のうち空調（冷暖房）の占める割合が大きいことから、空調（冷暖房）温度の適正な管理やその他の節電の取り組み等を継続的に行う。
- ・施設の運用改善やOA機器・照明について、職員一人ひとりの取り組みを継続的に実施し、定着化させていく。
- ・定期的なメンテナンスによる設備・機器の性能の維持を図る。
- ・より高効率な設備・機器への更新によるエネルギー化を図る。

●市民・事業者への取り組み

- ・水道水の節水、ごみ減量、ごみの分別、リサイクルなど再利用・再資源化を啓発していく。
- ・市民が利用する施設では、利用者に協力を求め、市民との協働による取り組みを行っていく。